

11月3日(水)

報告：滝澤 宏明 (Cグループ)

---

2日の休日をはさみ、3日の朝僕たちはHAWAII ISLAND FAMILY HEALTH CENTERに向かった。ここはHilo Medical Centerの施設の一つであり、家庭医が常駐する地域の診療所である。Hilo Medical CenterはHilo地域の中核病院なのだが、外来機能を持たずその役割をこの診療所が行っているという日本では珍しい形態の医療体制である。

この診療所にはDr Jay LaiとDr Eshwar Kapurの二人の家庭医療医がメインで診療を行い、その他にアメリカ本土で引退した産婦人科医がアドバイザーとして常駐する。日本と違うのは、この三人のDr以外にも診療を行う人がいる事である。それはNP/nurse practitionerという資格を持った医療者なのだが、これは看護学校を卒業しさらに2年間トレーニングを受けて取得できる資格で、一定時間の臨床訓練をパスした上でDrと同様の診察・検査・処方を行える。(ただしその権限は州ごとに異なるが、ハワイ州の場合はかなり自由度が高いそうである。)

まずこの診療所を受診した患者はバイタル計測、病歴聴取などを行われた後NPの診察で良いかどうか尋ねられ、了解するとNPの受け持ち患者となる。つまり症例の難易度や種類によってNPの患者が決められるわけではない。NPは必要に応じてDrに患者のコンサルトを行うが、NPだけで患者の診察が完結する場合もある。僕は4日の午前中NPの診察に付き添わせてもらったのだが、実に手際よく診療を行う彼女の姿にとても感服した。葛西先生の談では、Drよりよほど知識・技量が高いNPもまれではないということだった。

さて、3日の午前中僕と若山先生(福島医大、家庭医療の後期レジデントのスポーツマン)はFPのDr Jayの診察を見学させてもらった。

午前中でDr Jayは三人の患者を診察した。一人目は甲状腺機能低下症でホルモン薬内服中の42歳女性、最近処方された新しいホルモン薬が効かないと訴え来院。全体の感想でも記載したが、Dr Jayは薬が効かないという話を実に詳細に聞く。薬の内服方法に問題はないのか、量は指示された正しい量なのか。その患者はインターネットで調べたホルモン薬のハンドアウト持参で、実に色々な主張をしてくるのが印象的だったが、Dr Jayは決して患者の訴えを言下に否定しない。これは他の患者の診察を通じていえるが、Dr JayはFlexibleという言葉キーワードに診療を行っているようだった。

患者と信頼関係を築くのがまず最優先すべきポイントで、それが出来ないうちは例えば患者が医学的に間違った主張をしても無下に否定はしないという姿勢がうかがえた。

二人目の患者は77歳と高齢の女性で、腎臓結石で定期通院中の方だったが、この患者は過去に数回TIAの発作を繰り返しているが、アスピリンなどの服薬は気分が悪くなるなどの理由でしていない。この患者に対してDr Jayは脳梗塞などになった場合の救命行為をどの程度まで行うかを書面で確認していたのが印象的だった。患者も急変に陥る可能性とその場合の希望などをともしっかりと理解し、主張を行っていた。

日本とは文化が違うのだろうが、全国で統一されたDNRの書式があるのはとても便利だ

と思った記憶がある。



午後に僕らは Hilo から北に車を走らせ Hamakua Health Center に向かった。まず理事長の Susan に病院の説明を受けた後施設の見学をさせてもらった。ここはキリスト教関係の NPO が設立した慈善病院で、4 人の家庭医と Nurse practitioner と総合医が 1 人ずついて外来診療、77 床の入院患者、24 時間体制の ER といった医療を約 6 万人の医療圏に対して提供している。この病院のポイントは、医療保険を持たない患者の診療も行っているという点である。この病院を受診する患者の 55% が保険を持たない。

今回の研修を通じて感じた事の一つが日本の国民皆保険という制度の素晴らしさだった。日本の患者はどの医者に通院しようが自由で、費用もアメリカのそれと比べて格段に安い。保険がないために病院を受診したくてもできないなどという事は基本的にない。この点は日本の医療が世界に誇るべき美点だと思う。(患者のコンビニ受診や医療者の疲弊につながっているという批判はあるものの・・・)

しかし慈善病院だからと言ってこの Center の医療レベルが劣っているということではなく、週に一度専門医たちとのネットを介した会議を行ったり、働く Dr 達は宗教的奉仕の精神とやる気に満ち溢れているように見えた。

海沿いに建つこの病院の病室からの真っ青な海の色と相まって、とても穏やかな気分になった事を思い出す。この様にして 3 日の一日は過ぎた。ホテルに戻った時はぐったりだったが、とても刺激的な一日だった。

